

教界ニュース

第5回日本伝道会議 参加登録開始 「危機の時代」の課題を反映

9月21、24日、札幌市 あることを、様々な角度で開催される第5回日本伝道会議(中島秀一会長、背景には、前回伝道会議の後、日本と世界の情勢はむしろエレミヤが預言したような「危機の時代」に直面している」との認識がある。そのために今回の会議は次世代を担う人々・青年の力を集め、先達から伝道の熱心と経験を学び、この時代を洞察する。副題に「宣教150年を迎える新しい日本と教会を拓くために」と掲げたように、プロテスタント宣教の歴史的な節目となる「札幌バンド」ゆたが、準備中だった午後

のシンポジウム・分科会のテーマも整った。シンポジウム「日韓教

の時代と教会―苦悩する牧会者と共に―も、近年特に、教会が直面している課題だ。シンポジウムの課題と展望について、ジョンソン氏を囲んで考

子どもの叫びを受け止めた

坪井節子弁護士の番組に反響

FEBBC



ひとりじゃないよ

キリスト教放送局日本FEBBC (AM1566kHz)で今年1月から毎週月曜日夜10時15分より放送中の番組「ひとりじゃないよ。今、子どもの叫びを受け止めて」語り手・坪井節子弁護士(カリヨン)が反響を呼んでいる。「あなたになんか憐れんでほしくないよ」と反発する子どもを前に、自分の無力さに打ちのめされる一人の弁護士。私な



「そんなことはないよ」というメッセージが伝わりますように、「坪井さんの生きた言葉に放心状態!」「イエス様ご自身が底支えなんです」など、感動の声が多数寄せられている。坪井さんをゲストに招いた番組制作は2度目。今回は特別番組だった

ミサ曲からタンバリンまで19組

名古屋市中区の日基督教

名古屋市中区の日基督教が集った。名古屋中央教会で2月22日、「2009名古屋賛美フェスティバル」(名古屋キリスト教協議会、日本賛美歌学会中部支部共催)が開催された。この催しは、プロテスタント宣教150年を記念し、賛美の賜物を分かち合おう、との趣旨で企画したもの。名古屋近郊の教会、キリスト教主義学校・団体に呼びかけたところ、ただちに19組もの参加希望が寄せられ、実現となった。当日は、出演者を

は、ドラムやタンバリン、ダンスを盛り込んだワッシュンクを披露。また聖公会・聖マルコ教会によるミサ曲、福音ルーテル・名古屋めぐみ教会によるルーター作曲歌、改革派・4教会(名古屋・八事・豊明・名古屋岩の)合同聖歌隊による詩篇歌など、各曲に教派の特色が表れた。

最後には、出演者有志でハレルヤコーラスを賛美し、締めくくった。フリーヨンの動きを聞かせていた中で、坪井先生ご自身のお姿と、その祈りを知って頂けたらという趣旨で依頼した」と語る。坪井先生の思いや情

南ア闘士フーサク氏反ANCで州知事選

【CJCII東京】南ア

成した。南アでは総選挙と地方選挙が4月22日に行われる。フーサク氏は当初出馬に消極的だったが、国が必要としている変革をもたらす時であることを認めなければならぬこと、州内に熱望がある」こと

のアルトヘイト(人種隔離政策) 反対運動の闘士アラン・フーサク氏(世界改革派連盟元会長)が

議員がANCを離党し、08年12月に国民会議を結

各教派から500人が参加し多様な賛美を分かち合った

熱など、生の部分を聞かせていただけた。自分は無力でいい、いや無力でない。本当に子どもと向き合おうとできない」とい言葉は、まさに坪井さんの信仰告白ではないかと思う。日本FEBBC副代表の鈴木誠司さんは「坪井先生ご自身が、子どもを一人の人として尊重したうえで、それでも神の御手を信じていく中、何か聞かれたいというところを生き生きと伝えて下さり、まさに信仰者の姿だと思った。その意

春のような陽気にさざわれ、上野の山を散策した。国立西洋美術館ではルーブル美術館展、国立博物館では福沢諭吉展を見学。土曜日の午後ということもあって散策する人々にぎわっていたが、突然、上野精養軒のそばの広場から賛美の声が聞こえてきた。見ると、200人近くはいるだろうか、ホームレスの人々が地べたにすわり手元の印刷物を見ながら声を合わせている。マイクから司会者の祈りが広場いっぱいになり、その光景を見ながら不思議な感覚に襲われた。1880年(明治13)、この日本で一番古いレストランの敷地で、東京で初めての野外伝道集会所が開かれた。何千人もの人が集まったようだが、野外というところで講師の声が全体には届かなかったという。そこで、会衆を小グループに分け数人の講師がそれぞれに説教をした。講師の中には同志社を創設した新島襄もいた。この記念すべき伝道集会所で、初代の衆議院議長となった中島信行も信仰決心をしたという。時は移り、この歴史的な場所、明日の生活も保証されない人々が今も変わらない福音を聞いている。上野の山のその一角にはすがすがしい風が吹いていた。

賛美でたどる宣教150年

名古屋で記念フェスティバル

名古屋市中区の日基督教が集った。名古屋中央教会で2月22日、「2009名古屋賛美フェスティバル」(名古屋キリスト教協議会、日本賛美歌学会中部支部共催)が開催された。この催しは、プロテスタント宣教150年を記念し、賛美の賜物を分かち合おう、との趣旨で企画したもの。名古屋近郊の教会、キリスト教主義学校・団体に呼びかけたところ、ただちに19組もの参加希望が寄せられ、実現となった。当日は、出演者をフチャーチ原チャペル各演奏は、聴衆の心を打

た。また、名古屋中央教会やバプテスマ連盟・名古屋キリスト教会の聖歌隊による賛美、日基督教団・熱田教会によるオリジナル賛美、在日大韓・名古屋教会「ハレルヤ・シオン合同聖歌隊」による、韓国の太鼓のリズムに合わせた合唱なども好評だった。

3月23日には第12回を放送。放送終了後にも約1か月間、ウェブサイトでwww.febbc.jp.comで聴くことができる。3月25日には、同番組を収録したCD「ひとりじゃないよ。今、子どもの叫びを受け止めて」(5枚組13話)も日本FEBBCから発売される。定価5千200円のところ5月31日まで特価4千500円で販売。問い合わせは0422・52・1566、日本FEBBCまで。

世界の人々に 食糧と愛を 日本国際飢餓対策機構 http://www.jifh.org/ 献金の振込は、郵便振替 00170-9-68590 千581-0032 大阪府八尾市弓削町3-74-1 ☎072-920-2225



クリスチャンライフ

教え子らに囲まれ

100歳の誕生日会

「ほめたたえられるべき神様が、第一の賛美を」。揺るがすことなく、その思いを込めて東京基督教短期大学(現・東京基督教大学)で、教会音楽を教えた三谷幸子さんが、100歳の誕生日を迎えた。そのお祝いに、教え子や関係者ら50人以上が駆けつけた。

市川北教会牧師夫人(三谷谷)について話す。10年前、先生の今後を支えていきたいと思いついて、教会音楽を伝えていくからスタートしました。葬儀の時には『賛美で見送ってほしい』との先生への願いがあり、賛美の練習を兼ねてクワイヤのOBが毎年5月に集まるようになりました。それが100歳の誕生日を祝うに至りました。

「でもあります」今回は100歳ということもあり、北海道から九州、40代から70代まで、幅広い層の教え子たちが集った。三「賛美スピリットがきずな」

「でも楽しんでいた様子だった」という。普段は会えない教え子もいますか。40代から70代まで、幅広い層の教え子たちが集った。三「賛美スピリットがきずな」

「100歳になっちゃった」という。普段は会えない教え子もいますか。40代から70代まで、幅広い層の教え子たちが集った。三「賛美スピリットがきずな」

37年前の飛行機事故を映画化

「アライブー生還者」4月公開

1972年に起こったアンデス山脈の旅客機墜落事故から生還した16人の証言をもとに制作されたドキュメンタリー映画「アライブー生還者」が、4月11日から、東京・渋谷区の「ヒューマン・トラストシネマ渋谷」を皮切りに全国で順次公開される。映画の日本公開に先駆けて、生還者の1人で建築家、カトリック信者のエドワード・ストラウ

「アライブー生還者」は、1972年に起こったアンデス山脈の旅客機墜落事故から生還した16人の証言をもとに制作されたドキュメンタリー映画。

「アライブー生還者」は、1972年に起こったアンデス山脈の旅客機墜落事故から生還した16人の証言をもとに制作されたドキュメンタリー映画。

「アライブー生還者」は、1972年に起こったアンデス山脈の旅客機墜落事故から生還した16人の証言をもとに制作されたドキュメンタリー映画。

「アライブー生還者」は、1972年に起こったアンデス山脈の旅客機墜落事故から生還した16人の証言をもとに制作されたドキュメンタリー映画。

「アライブー生還者」は、1972年に起こったアンデス山脈の旅客機墜落事故から生還した16人の証言をもとに制作されたドキュメンタリー映画。

「アライブー生還者」は、1972年に起こったアンデス山脈の旅客機墜落事故から生還した16人の証言をもとに制作されたドキュメンタリー映画。



教会音楽家 三谷幸子さん

「今こそ私たちが教会で賛美指導して欲しい。ある時、卒業生の1人が『ほくは三谷先生にとても丁寧に指導していただいた。その後もつながりがあった。美は信仰によるもので、生徒の中で一番かわいがられていたと思う。』という先生の教えがあったので、励まされてきました。その人その人に与えられた賜物を見抜くのも、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「今こそ私たちが教会で賛美指導して欲しい。ある時、卒業生の1人が『ほくは三谷先生にとても丁寧に指導していただいた。その後もつながりがあった。美は信仰によるもので、生徒の中で一番かわいがられていたと思う。』という先生の教えがあったので、励まされてきました。その人その人に与えられた賜物を見抜くのも、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「今こそ私たちが教会で賛美指導して欲しい。ある時、卒業生の1人が『ほくは三谷先生にとても丁寧に指導していただいた。その後もつながりがあった。美は信仰によるもので、生徒の中で一番かわいがられていたと思う。』という先生の教えがあったので、励まされてきました。その人その人に与えられた賜物を見抜くのも、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「今こそ私たちが教会で賛美指導して欲しい。ある時、卒業生の1人が『ほくは三谷先生にとても丁寧に指導していただいた。その後もつながりがあった。美は信仰によるもので、生徒の中で一番かわいがられていたと思う。』という先生の教えがあったので、励まされてきました。その人その人に与えられた賜物を見抜くのも、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「今こそ私たちが教会で賛美指導して欲しい。ある時、卒業生の1人が『ほくは三谷先生にとても丁寧に指導していただいた。その後もつながりがあった。美は信仰によるもので、生徒の中で一番かわいがられていたと思う。』という先生の教えがあったので、励まされてきました。その人その人に与えられた賜物を見抜くのも、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「今こそ私たちが教会で賛美指導して欲しい。ある時、卒業生の1人が『ほくは三谷先生にとても丁寧に指導していただいた。その後もつながりがあった。美は信仰によるもので、生徒の中で一番かわいがられていたと思う。』という先生の教えがあったので、励まされてきました。その人その人に与えられた賜物を見抜くのも、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「今こそ私たちが教会で賛美指導して欲しい。ある時、卒業生の1人が『ほくは三谷先生にとても丁寧に指導していただいた。その後もつながりがあった。美は信仰によるもので、生徒の中で一番かわいがられていたと思う。』という先生の教えがあったので、励まされてきました。その人その人に与えられた賜物を見抜くのも、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多



「ルチャちゃん」は、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「ルチャちゃん」は、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「ルチャちゃん」は、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「ルチャちゃん」は、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

「ルチャちゃん」は、三谷先生の才覚で、それで芽を出した人もずいぶん多

No. 9



団塊編

痛みの中に生きる人たち

「平日も夜中まで残業し、土日出勤も少なくない。体調も崩れるし、年離れた家族の介護もかかる」と、順調な時のように奉仕はできなくなりました。そこに『信仰が落ちている』などという人が出てくると本当にやるせなくなりました。そんな時は、御言葉も心に入らず、悪循環です。

「平日も夜中まで残業し、土日出勤も少なくない。体調も崩れるし、年離れた家族の介護もかかる」と、順調な時のように奉仕はできなくなりました。そこに『信仰が落ちている』などという人が出てくると本当にやるせなくなりました。そんな時は、御言葉も心に入らず、悪循環です。

試練のたびに求めた神の導き

「平日も夜中まで残業し、土日出勤も少なくない。体調も崩れるし、年離れた家族の介護もかかる」と、順調な時のように奉仕はできなくなりました。そこに『信仰が落ちている』などという人が出てくると本当にやるせなくなりました。そんな時は、御言葉も心に入らず、悪循環です。

人肉で命つなぐ壮絶の72日間



エドワード・ストラウチさん

「平日も夜中まで残業し、土日出勤も少なくない。体調も崩れるし、年離れた家族の介護もかかる」と、順調な時のように奉仕はできなくなりました。そこに『信仰が落ちている』などという人が出てくると本当にやるせなくなりました。そんな時は、御言葉も心に入らず、悪循環です。